

より多くの引退競走馬を  
セカンドキャリアにつなぐ方法

香川県立三木高等学校

森本結衣

## 目 次

### I 引退競走馬の現状

### II 競走馬の一生

#### (1)引退競走馬をセカンドキャリアにつなげにくい原因

- ①引退後の行き先は馬主と調教師が話し合って決める点
- ②引退後約20年の時間がある点

#### (2)引退競走馬の行方

- ①引退競走馬の行方を調べる方法
- ②現場で働く人の声

### III イギリスの調査から見る日本の引退競走馬界

### IV 競馬界と国民

### V 参考文献リスト

## I 引退競走馬の現状

(スライド1)日本では現在、毎年約7,000頭の競走馬が引退している。そして、ほとんどの引退競走馬は食肉になっているというニュースを耳にして衝撃を受けた。また、食肉になっているだけでなく、引退した後に行方不明になっているという情報も知った。そこで、まずはほとんどの引退競走馬が食肉になっていることは事実なのかを突き止めることと、引退競走馬が行方不明になっているというのはどういうことなのかを明らかにすることを目的にこの研究を開始した。

(スライド2)農林水産省によると2024年の登録抹消頭数は中央競馬と地方競馬を合わせて、10,838頭<sup>1</sup>である。登録抹消頭数の内訳には、再登録、乗馬、繁殖、研究、へい死、その他がある。(スライド3)「その他」に分類された登録抹消頭数は、1,109頭という記述のみである。また、日本中央競馬会(以下JRA)のホームページでは「競走馬登録抹消後の馬の行き先は。」という質問に対して「地方競馬へ転出する場合のほか、繁殖馬となる場合や乗馬に転用される場合等があります。」<sup>2</sup>という回答をしている。つまり、引退競走馬が食肉になっているということは公になっていないのである。

(スライド4)2024年から「引退競走馬に関する検討委員会」(以下検討委員会)<sup>3</sup>が、「一般財団法人Thoroughbred Aftercare and Welfare」(以下TAW)を新たに設立した。

一般財団法人 Thoroughbred Aftercare and Welfare(略称:TAW)は、引退競走馬について、セカンドキャリア形成や養老・余生の機会拡充などを図るとともに、引退競走馬を始めとする馬の多様な利活用や馬事振興・乗馬普及などに資する取組みなどを行い、我が国における 馬と人の関わりを広め、もって競馬や馬産業の発展に寄与することを目的とし、引退競走馬等に関わる活動を行うための専門的な団体として、2024年に新たに設立した団体<sup>4</sup>

TAWを設立した目的から、競馬を運営している人々は引退競走馬に関する課題があることを認識していることが伺える。そして、現役時代に私たちにたくさんの感動を届けてくれた競走馬たちが、余生を穏やかに過ごせるように責任を持つべきだと考える。よって、現在の日本競馬界における課題は、より多くの引退競走馬をセカンドキャリアにつなぐことだと考える。

## II 競走馬の一生

当歳(0歳) 年明けから初夏にかけて生産牧場で生まれる。→1歳秋ごろ 馬具の装着から人を乗せて走る練習をする。(騎乗馴致)→「セリ市」と呼ばれるセールで売買されたり、牧場から直接購入されたり(庭先取引)する。→厩舎に所属し、調教師の管理の下、デビューに向けてトレーニングを開始する。→2歳6月ごろ 新馬戦(初めて出走する馬だけのレース)に出走し、勝利すると1勝クラス4のレースに出走することが可能になる。勝利できなかった場合は、新馬戦以降は未勝利戦に出走することになる。→多くの競走馬は5歳前後になると引退する。→25歳ごろ 一生を終える。

### (1)引退競走馬をセカンドキャリアにつなげにくい原因

(スライド5)①引退後の行き先は馬主と調教師が話し合ったうえで決められる<sup>2</sup> 点。

競走馬登録を抹消した馬は、JRAまたはNAR(地方競馬全国協会)の施設から退厩し、居場所がなくなる。2024年からTAWが新設されたことにより、一時的な居場所を確保できるようになったが、全ての引退競走馬を受け入れられるわけではない。

(スライド6)②引退後亡くなるまで約20年の時間がある点。

馬1頭を飼育するには、少なくとも月70,000～80,000円が必要である<sup>5</sup>。引退競走馬1頭を最期まで飼育するには、最低でも16,800,000～19,200,000円が必要である。さらに、医療費等も追加すると莫大な資金が馬1頭を飼育するだけで必要なことがわかる。(スライド7)莫大な資金が必要なことから、「公益社団法人ジャパン・スタッドブック・インターナショナル」(引退競走馬の繋養展示への助成や、引退競走馬に係る情報の提供を行っている財団)が行なっている「功労馬繋養支援事業」がある。この事業内容の一部として、「助成金交付事業」があり、功労馬の所有者に助成金を交付する事業である<sup>6</sup>。この助成金を受け取ることができる引退競走馬は以下の条件を満たす馬である。

競走、繁殖及びその他の用途から引退していずれの用途にも使われることなく、余生を送るために繋養されている馬であって、中央競馬重賞競走の勝馬又は地方競馬で実施されたダートグレード競走（ダート競走格付け委員会又は日本グレード格付け管理委員会において格付けされた指定交流重賞競走）の勝馬であり、次の要件を満たす馬です。

1. 中央競馬の競走馬登録又は地方競馬の馬登録を抹消していること。
2. 本財団の繁殖登録を受けた馬にあつては、用途変更の届出をしていること。
3. 公益社団法人日本馬術連盟の乗馬登録及び公益社団法人全国乗馬倶楽部振興協会の乗用馬登録を現に受けていないこと。
4. 助成金交付対象年度に10歳以上であること。
5. 国内において、善良な管理が行われていること。
6. 競馬ファンを含め広く一般に対し、常時展示されていること。

（スライド10）上記の条件において問題点がある。中央競馬重賞競走の勝馬又はダートグレード競走の勝馬でなければ、条件を満たせないことである。この2つのレースはどちらも優勝することはかなりハードルが高い。重賞とは、中央競馬のGⅠ・GⅡ・GⅢのことであり、下の図7から中央競馬においてグレードの高いレースだということが分かるだろう。



一説によると、GⅠで勝利できる確率は1%未満と言われていることから、重賞競走の勝馬になれる馬はほんの一握りであることが現状だ。

次に、上記の要件においても問題点がある。

（スライド12）要件4より、5歳で引退すると仮定すると、引退してすぐに助成金を受け取ることができないことである。たとえ中央競馬重賞競走またはダートグレード競走の勝馬であったとしても、数年間は公的な機関からの助成金は得られないので、その間は自力で工面しなければいけない。

（スライド13）要件6より、引退競走馬が牧場等にいたとしても、その牧場が一般人の見学を許可しているわけではない。また、以前は一般人の見学が可能であった牧場が、見学する際のマナーが悪いことが原因で見学することが不可能になってしまった牧場もある。助成金交付対象であるにも関わらず、常時展示されていないことで助成金を受け取ることができなくなるのは惜しい状況だ。また、常時一般人に向けて展示しているということは、その牧場にいる引退競走馬が適切な環境下で管理されていることが分かることにもつながるので、助成金交付対象の引退競走馬でなくとも、常時展示をするためのサポートが必要だ。

## （2）引退競走馬の行方

### ①引退競走馬の行方を調べる方法

現在公的機関から発信されている情報のみで全ての引退競走馬を調べることは不可能な状況である。公益社団法人ジャパン・スタッドブック・インターナショナルのホームページでは、209頭の引退競走馬の繋養先とそこでの近況を公開している。9 NARのホームページが公開している引退競走馬の情報では、

馬名は検索できるが、その馬がどこに繋養されたのかは分からない。<sup>10</sup> また、公益社団法人日本軽種馬協会が提供している競馬情報データベースでは、中央競馬と地方競馬どちらに所属していた引退競走馬でも検索することはできるが、繋養先が公開されている馬はごくわずかである。<sup>11</sup> 以上の公的機関で繋養先が公開されていた引退競走馬の多くは、戦績が良く、有名な馬であり、それ以外の成績不振等の理由で引退した競走馬の行方は調べることは不可能な状況にある。

(スライド14) ②現場で働く人の声

香川県観音寺市にある有明浜ホースパークの方にインタビューをした。有明浜ホースパークは、乗馬クラブと乗馬クラブ会員以外でも乗馬ができる体験乗馬を行っている。有明浜ホースパークにいる馬はほとんどが引退競走馬であり、引退競走馬や競馬界の実情を伺った。

(スライド15) Q引退競走馬が食肉になっているのは本当なのか？

近年ネットやニュースで、競走馬は引退後食肉になっているという情報が散見される。しかし、競馬に関係する公的機関からはそのような情報は公表されておらず、真実ではない可能性があった。そこで、食肉になっているのは本当なのかを聞いたところ、本当だという答えが返ってきた。引退競走馬の97%が食肉になっているそうだ。公的機関から公表されているデータではないが、現場で働いている人までもがこのように言っているのであれば、やはり事実である可能性は極めて高いと言えるだろう。

(スライド16) Q.今後さらに引退競走馬が活躍できる場とは？

現在引退競走馬の主なセカンドキャリアである、乗馬はもちろんのこと、時代劇等の撮影で起用されるケースがある。本来馬は、揺れる物や大きな音に敏感であり、周囲がそのようなものであふれている状況下では暴れだしてしまうことが多い。(スライド17)しかし、その馬ごとに特徴は異なるので、何が得意なのかをセリでアピールし、そのアピールを見て惹かれた乗馬界の人が、その引退競走馬を引き取るという場が設けられている。有明浜ホースパークのオーナーさんも、このセリで引退競走馬を引き取ったそうだ。もらい受けた際のエピソードを伺う中で、その引退競走馬が特別何かに秀でていることがアピールされていなくても、実際に乗馬クラブ等の人の目で見ると、その引退競走馬の性格等が分かり、引き取り手が見つかることもあると考えた。特に乗馬としてセカンドキャリアを歩んでいく引退競走馬の性格という要素は、重要なものである。気性が荒すぎる馬より、穏やかな性格の馬の方が乗馬界では求められる。(スライド18)このことから、引退競走馬それぞれの個性や素質を踏まえた上で、既存のセカンドキャリアだけでなく、新たなセカンドキャリアの開拓の余地があると同時に、その引退競走馬の能力をより多くの馬業界の人に見てもらう場を増設するべきだと考えた。

Q.JRAで調教師や厩務員として働いている人でも、引退した後の競走馬の行方が分からない、また行方を探すがタブーとされているのはなぜか？

(スライド19) JRAではとにかく競走馬の出入りが激しく、特定の競走馬を同じ調教師や厩務員がずっと担当することはほとんどなく、毎週のように厩舎の中では競走馬の入れ替わりがあるため、引退したとしても気にかけている時間がないそうだ。JRAで調教助手をしていた方にお話を伺うと、その方も例外ではなく、「担当した競走馬の血統は覚えているが、名前は一頭一頭覚えていなかった。」とおっしゃっていた。日本の競馬界では、競走馬の引退は調教師と馬主が相談して決定する。一つの厩舎で管理できる競走馬の数にも限りがあり、その中でレースで勝てるようにするには、いつまでも実力不足の馬を厩舎に残しておくわけにはいかないので、引退になる競走馬が多数存在するそうだ。(スライド20)そして、競馬界全体で引退競走馬の行方を探すがタブーとされているのは、そうすることが都合がいいからである。退厩(厩舎から出ること)させたい競走馬をすぐに引き取ってくれる乗馬クラブ等の人が引き取った後すぐに肥育場に出して、食肉にし利益を得ているケースがあることも分かっているが、いつでもすぐに引き取ってくれるのは厩舎側の人間にとってはありがたいので、見て見ぬふりをしているのだ。

Q.有明浜ホースパークの馬の餌代等はどのようにやりくりしているのか？

有名な牧場にいる、知名度のある引退競走馬ならファンからの寄付がある場合があるが、ここの乗馬クラブにいる馬たちはそのような寄付もなく、助成金を受け取っているわけでもない。それぞれの餌代等

は、乗馬体験で客を乗せて得るお金で賄っているそうだ。自分の餌代は自分で仕事をして稼ぐために、その仕事を見つけてくるのが私の仕事だとオーナーさんがおっしゃっていた。

### III イギリスの調査から見る日本の引退競走馬界

(スライド21) イギリスで、2023年にサラブレッド全頭調査がハートピュリー大学によって実施された。<sup>12</sup> この調査の主な目的は、サラブレッドの競走引退後の生活を向上させるために、イギリスのサラブレッド頭数の推定値と現実のあいだにある認識のギャップを埋めることにある。この全頭調査で、元競走馬8,256頭の詳細情報が馬主によって提出された。そのうち5,566頭はこれまで未登録だった。今回の調査を受けて、ハートピュリー大学は現在、元競走馬の頭数を33,600頭と評価している。(スライド22) このサラブレッド全頭調査は、6ヶ月にわたって実施した大規模な調査であり、ハートピュリー大学だけではなく、RoR{Re training of Racehorses (競走馬の再調教)}とともに競馬財団が資金を提供し、世界馬福祉協会とウェザビーズ社ジェネラルスタッドブック(競馬コミュニティの支援を行っている企業)が協力して実施した。このように、引退競走馬の生活をより良いものにしよう動き、ここまでの調査結果を得ていることから、日本の競馬界はイギリスの競馬界を参考にしていくべき点があると考えた。

(スライド23) 具体的に挙げると、イギリスの「馬パスポート」というものがある。これは、イギリスのすべての馬の行方を追跡する際の主な情報源であり、紙の個体識別書類である。新しい馬主は馬を引き取ってから30日以内に馬パスポートを更新することが法律で義務づけられている。その馬が現役の時では、馬パスポートの情報は生産者・馬主・調教師を通じてウェザビーズ社のジェネラルスタッドブック(サラブレッドの血統書)で管理される。しかし、引退競走馬のデータは、引退すると減少してしまうそうだ。(スライド24) その原因が、全頭調査によって明らかにされている。一部抜粋すると、「プロセス(煩雑さ、かかる時間)」、「費用」というものが挙げられる。この調査結果を受けて、馬福祉委員会は、「環境・食糧・農村地域省デジタル馬ID (Defra Digital Equine ID)」というものをつくる計画をしている。運用するために、従来の紙パスポートではなく、デジタル馬IDを法定化するよう、政府に働きかけ続けるそうだ。

(スライド25) ここで、日本ではその馬の情報がどのように管理されているかを調べた。現在の日本の競馬界では、中央競馬所属の競走馬・地方競馬所属の競走馬問わず、全ての競走馬にマイクロチップを埋め込むことが義務づけられている。ただし、このマイクロチップは、競走馬の取り違えを防止する目的で個体識別をする方法として使用されているだけに過ぎない。つまり、マイクロチップ自体には誰に所有されているか等という情報は一切入っていないのである。(スライド26) また、「馬の検査、注射、薬浴、投薬証明手帳」(通称「健康手帳」)というものがある。これは、予防接種履歴、検査履歴、移動履歴や、個体識別に必要な情報が記載されている手帳である。馬が移動した場合は、健康手帳に移動年月日・移動元・移動先・記入者名および所属などを記入しなければいけない。移動歴の記入が必要な場合として、「牧場・乗馬クラブ間の移動 その他、繋養場所が変更される場合」<sup>13</sup> という場合がある。健康手帳は、その馬の現役時代から引退してからでも使用されているので、(スライド27) マイクロチップと健康手帳の情報をリンクさせることで、引退後の行方が分からないという状況は打破できるのではないかと考えた。

さらに、全頭調査では、引退競走馬が現在何をしているかも調査した。その調査について、馬福祉委員会のプログラム担当理事であるヘレン・フリン氏は次のように述べた。

「競走馬として成功しなかったサラブレッドは、ほかの役割に適応できないので廃棄されてしまうと誤解されがちです。しかし全頭調査は、彼らの驚くべき多才性とさまざまな新しいキャリアで活躍する能力を見せつけるにいたりました。」<sup>12</sup>

イギリスと同様に日本も、全頭調査が実施可能ならば実施した方が良いが、それに限らず、ヘレン・フリン氏が述べたように何らかの形で日本の引退競走馬のセカンドキャリアに関する情報を収集し、公開することも重要だと考える。(スライド28) そこで、「全国セカンドキャリアマップ」というものをつくることで解決すると考えた。「全国セカンドキャリアマップ」は、日本のすべての引退競走馬がどのようなセカンドキャリアを歩んでいるかを調べることができるデータベースのようなものだ。セカンドキャリアの幅を広げたいと考

える時、一人で考えるよりも、全国の引退競走馬が実際にどんなセカンドキャリアを歩んでいるかが気軽に情報収集できるような仕組みを活用して考えた方が、より幅広い分野で引退競走馬が活躍できるようになるはずだ。

#### IV 競馬界と国民

近年引退競走馬の問題に社会が気づき、少しずつ改善する動きが見られるようになった。かくいう私も、その動きから引退競走馬の問題を知り、探究テーマに選んだことから、この問題を解決するためにはいかにして競馬界の人やそれ以外の一般人が力を合わせて行動できるかにかかっている。社会全体が、引退競走馬の問題を取り上げ続けることにより、引退競走馬のことをタブー視する風潮のある競馬界や国が動かざるを得ない状況をつくり出すということが、より多くの引退競走馬をセカンドキャリアにつなぐ近道だと考える。

(スライド29)より多くの引退競走馬をセカンドキャリアにつなぐために、現役競走馬を減らすことや競走馬の生産数を減らすこと、つまり競馬界の事業縮小も一つの手段である。しかし、出走する競走馬自体が減少することによって、その減少した競走馬たちに関わっていたであろう人の仕事がなくなってしまうことは安易に推測できる。(スライド30)そして、JRAは2024年度に国庫納付金として、第一国庫納付金は33,428,926,530円、第二国庫納付金は32,273,539,717円を納付した。<sup>14</sup>これらの納付金は農林水産省の畜産興業事業と厚生労働省の社会福祉事業に使われている。「畜産興業事業として代表的なものは、食肉の流通や輸出振興、家畜伝染病の防止、畜産事業者の経営支援など」<sup>15</sup>がある。ちなみに、2022年度の農林水産省の年間予算総額のうち、約10%前後はJRAの納付金である。<sup>15</sup>また、NARも公営競技納付金制度のもと、約4,230,000,000円を地方公共団体金融機構へ納付している。公営競技納付金は地方公共団体の上下水道や病院、交通等を対象とした公営企業債や一般会計債(公営事業会計以外のもの)の利子の軽減に活用されている。<sup>16</sup>このように、競馬界の事業縮小は、競馬界だけではなく国民全員にも関係があるのだ。

近年引退競走馬の問題に社会が気づき、少しずつ改善する動きが見られるようになった。かくいう私も、その動きから引退競走馬の問題を知り、探究テーマに選んだことから、この問題を解決するためにはいかにして競馬界の人やそれ以外の一般人が力を合わせて行動できるかにかかっている。(スライド31)社会全体が、引退競走馬の問題を取り上げ続けることにより、引退競走馬のことをタブー視する風潮のある競馬界や国が動かざるを得ない状況をつくり出すということが、より多くの引退競走馬をセカンドキャリアにつなぐ近道だと考える。よって、より多くの引退競走馬をセカンドキャリアにつなぐために、まずは現在の日本競馬界の現状と課題をより多くの人に認知される必要があると考える。

(スライド32)そして、認知されるとともに馬をより身近な存在として認識されることも重要だ。(スライド33)例えば、香川県綾川町では毎年秋の交通安全週間に合わせて、地元の高校生の馬術部員が1日騎馬警察官として、馬と共に交通安全の啓発活動を行っている。<sup>17</sup>また、インタビューでお世話になった有明浜ホースパークにいる引退競走馬たちは、香川県内の祭りやイベントに積極的に参加しており、普段馬を見ない人の前に出ている。だから、このような機会を活用して引退競走馬の問題を解決しようとする人の輪を広げていくべきだ。

#### V 参考文献リスト

1 農林水産省畜産局 競馬監督課(2025)「馬産地をめぐる情勢」<https://www.maff.go.jp/j/chikusan/keiba/lin/attach/pdf/index-24.pdf> (2025/9/29閲覧)

2 JRA「よくあるお問い合わせ」 [https://www.jra.go.jp/owner/members/faq/category\\_g.html](https://www.jra.go.jp/owner/members/faq/category_g.html) (2025/1/5閲覧)

3 農林水産省、中央競馬(馬主、調教師、騎手、JRA)、地方競馬(主催者、NAR)、生産者の代表者で構成された委員会。

4 TAWホームページ <https://taw.or.jp/about/> (2025/1/5閲覧)

5 東京新聞 [https://www.tokyo-np.co.jp/article/233703\(2025/1/9閲覧\)](https://www.tokyo-np.co.jp/article/233703(2025/1/9閲覧))

6 公益社団法人ジャパン・スタッドブック・インターナショナル 「功劳馬繋養支援事業実施要綱」[https://www.jairs.jp/contents/pdf/intaiyoukou201709.pdf\(2025/1/9閲覧\)](https://www.jairs.jp/contents/pdf/intaiyoukou201709.pdf(2025/1/9閲覧))

7 日本中央競馬会 「レースのクラス分け」 [https://www.jra.go.jp/keiba/rules/class.html\(2025/1/9閲覧\)](https://www.jra.go.jp/keiba/rules/class.html(2025/1/9閲覧))

8 公益社団法人ジャパン・スタッドブック・インターナショナル 「2024年 引退名馬繋養展示事業助成金交付申請(後期分)について」 [https://www.jairs.jp/sp/contents/jairs/2024/4.html\(2025/1/9閲覧\)](https://www.jairs.jp/sp/contents/jairs/2024/4.html(2025/1/9閲覧))

9 公益社団法人ジャパン・スタッドブック・インターナショナル 「功劳馬一覧」  
<https://www.meiba.jp/horses/list> (2025/4/4閲覧)

10 地方競馬全国協会 「地方競馬情報サイト データベース検索」  
<https://www.keiba.go.jp/KeibaWeb/DataRoom/DataRoomTop> (2025/4/4閲覧)

11 JBIS search 国内最大級の競馬情報データベース「馬情報」  
<https://www.jbis.or.jp/horse/> (2025/4/4閲覧)

12 公益社団法人ジャパン・スタッドブック・インターナショナル 海外競馬情報 「初めてのサラブレッド全頭調査から引き出された結果 (イギリス)」  
[https://www.jairs.jp/sp/contents/w\\_news/2024/4/2.html](https://www.jairs.jp/sp/contents/w_news/2024/4/2.html)  
(2025/4/4閲覧)

13 軽種馬防疫協議会 「健康手帳への記入事項」  
<http://keibokyo.com/prevention/health/> (2025/4/5閲覧)

14 日本中央競馬会 「国庫納付を通じた貢献」  
<https://www.jra.go.jp/company/social/treasury/pdf/nouhukin.pdf?version=2025> (2025/4/5閲覧)

15 片野ゆか『セカンドキャリア 引退競走馬をめぐる旅』集英社 (2023)

16 地方競馬全国協会 「地方競馬情報サイト みんなのくらしと地方競馬」  
<https://www.keiba.go.jp/about/outline/life.html#:~:text=%E5%85%AC%E5%96%B6%E7%AB%B6%E6%8A%80%E3%81%AE%E5%8F%8E%E7%9B%8A%E3%81%AE,%E3%81%8C%E7%B4%8D%E4%BB%98%E3%81%95%E3%82%8C%E3%81%A6%E3%81%84%E3%81%BE%E3%81%99%E3%80%82> (2025/4/5閲覧)

17 RNC西日本 「馬術部の高校生が一日警察官 交通安全を呼びかけ」  
<https://news.ntv.co.jp/n/rnc/category/society/rnfbf29e4b493f481fa57633827ed584cb>  
(2025/9/29閲覧)